

激論

# 日本民主主義の 将来はあるか

*okazaki hisahiko*

*hasegawa michiko*

岡崎久彦 × 長谷川三千子



hasegawa michiko

岡崎久彦×長谷川三千子

激論

日本の  
民主主義  
に将来は  
あるか

大学蔵  
蔵

激論 日本の民主主義に将来はあるか

二〇一二年六月二十六日 第一刷発行

著 者 おかざきひさひこ 岡崎久彦・はせがわみちこ 長谷川三千子

発行者 下村のぶ子

発行所 株式会社 海竜社

東京都中央区明石町十一の十五 〒104-0044

電話 (03)3542-9671 (代表)

FAX (03)3541-5484

郵便振替口座 0011-01944886

海竜社ホームページ <http://www.kairyusha.co.jp>

印刷・製本所 シナノ印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えます

©2012, Hisahiko Okazaki & Michiko Hasegawa. Printed in Japan

『激論

日本の民主主義に将来はあるか』・目次

## 第一章 民主主義とはどういうものなのか

——その生い立ちにひそむ構造的な問題

- 二〇〇九年鳩山政権発足、日本を覆った「民主主義原理主義」 18
- 民主主義の中心思想にひそむ危険な本性 21
- 民主主義を採用する大多数の国が減びないのはなぜか？ 23
- 民主主義の「遠心力」が国家・社会をバラバラにする 25
- 民主主義で国を守るのか？ 27
- 民主政の揺籃は戦争、軍事であった デーモクラティア 30
- 日本で民主主義が発達しなかったのはなぜか？ 33
- 理論よりも歴史から生まれた、アテナイの民主政 36
- 権力に対する不信感に貫かれた古代ギリシャの制度 38
- 「サラミスの海戦」の勝利がペリクレスを生んだ 42

## 第二章

### 近代デモクラシーの誕生

——英国は成功したが、フランス革命は民主主義の失敗例ではないか？

- 戦争による高揚感が、若者を奮起させる 45
- ギリシャ民主政は愛国主義と結合することで栄えた 48
- 民主主義と衆愚政治は紙一重の差しかない 51
- 民主主義には独裁者を生み出し得る危うい側面がある 55
- 民主主義のもう一つの源泉、マグナ・カルタ 60
- なぜマグナ・カルタは、欧州大陸や日本では生まれなかったのか？ 65
- 衆愚政治とは正反対の北条泰時の合議制 68
- 愛国主義が先にあれば、いかなる政体でも安定する 73
- 語源から迫る「自由」の意味 76
- イギリス型民主主義の基盤はコモン・ローにある 81
- ホッブズの洞察——「自然権」の行使は戦争状態を招く 83

■ ロックの支離滅裂——こっそり神をもち込んだ 87

■ 名誉革命の思想的背景はエドワード・コーク 92

■ 英国型とは全く異質の民主主義の登場 96

■ なぜフランス革命は失敗し、アメリカ革命は成功したのか？ 98

■ 二十一世紀、アメリカン・デモクラシーの危機 104

■ タイ人の知恵が生んだ「二大政党制」の健康なバランス 109

■ タイの軍事クーデターは、単なる政権交代である 112

■ 政治のイデオロギーも必要としない、タイ人の天性の民族性 116

■ 民主主義イデオロギーは喜怒哀楽の「怒」である 119

■ 日本の政治は古来の伝統に即し、戻るべきである 122

## 第三章 日本の伝統政治と近代デモクラシー

——自由民権・議会政治・大正デモクラシーをめぐる

■ 民主政に共通する「人民のための政治」と「権力者への反抗」 126

■憲法起草の際、問題になった「上下、君民の対立」というイデオロギー 129

■不平等条約に表れた、「列国より、己を責める日本人の美質」 133

■日本の伝統、「独断すべからず」は聖徳太子のオリジナル 135

■本当の衆議、衆論の可能性について鋭く見据えた東湖と聖徳太子 139

■諸葛孔明「出師の表」に見る政治の要諦 141

■「衆議」の本質は多数決ではなく、最良の政策を見いだすこと 145

■自由民権運動の旗手、板垣退助の原点にあった会津攻め 151

■民主主義においては、被害者であると訴えることが強みになる 154

■「上下一和」「君民苦楽を共にす」という日本人の理想 161

■競争型の民主主義は、日本の国柄に合っていないのではないか 165

■愛国的な「サムライ・デモクラシー」の変質と崩壊 170

■大正デモクラシーの何を評価するのか？ 176

■流血なしに政党政治を達成した世界史上に稀有な例 183

■最初の政党内閣、隈板内閣の是非を問う 187

## 第四章 「日本の国柄」に基づいた民主主義

### ——明治憲法制定の生みの苦しみ

- 日本の民主主義が「素性が良い」もう一つの理由 192
- 民主主義は世界の大勢、抗すべくもない時流である 194
- 渡欧して憲法調査に当たった伊藤博文 198
- 立憲君主制を最善とするシュタイン教授の鋭利な分析 202
- 「君民対立」が克服された「我が建国の体」に基づく帝国憲法 207
- 国益にかなう国家運営のためには、優秀な官僚の存在の不可欠 210
- 戦後民主主義の最大の墮落は田中角栄である 215
- 帝国憲法の前年度予算施行権（第七十一条）をどう見るか 220
- 「土佐派の裏切り」で予算を通した第一議会の愛国主義 224
- 民主主義の「遠心力」に対し、対外的危機は国民を一つにする 229

## 第五章 戦後民主主義にひそむアメリカの政策

——国家と国民を対立させ、歴史への誇りを打ち碎いた占領軍

- チャーチルの箴言は現代日本にも当てはまるのか？ 234
- 党利優先の政党政治家に国民は幻滅した 238
- 日英同盟と大正デモクラシーが続けば、大日本帝国は滅びなかった 242
- 日本は、民主主義以外の体制もすべて体験してきた 249
- 日本が歩んだ苛酷な歴史を、若い人たちに直視してほしい 255
- 戦後日本の混乱は、帰るべき場所はないと宣言したところにある 261
- 昭和前期の日本を暗黒に描いた司馬史観は正しいか 265
- 葬り去られた「大正デモクラシーの復活」 269
- GHQの言論統制こそ戦後日本の精神破壊の元凶 273
- 日本を軍事的に無力化する政策は、共産圏の戦略と一致した 275
- 戦後民主主義の思想的偏向が生まれた背景 279

## 第六章 今こそ、日本の政治を立て直す

——偏向教育の払拭と日本国憲法の抜本的な改正を

■民主主義と善政をつなぐ方策は？ 284

■本家アメリカの「権利章典」よりも優れていた帝国憲法の権利規定 288

■「押しつけ」どころか「脅迫」だった日本国憲法制定 292

■自衛権を憲法はどう定めているか 297

■集団的自衛権の行使に憲法改正は必要ない 300

■自衛隊の根拠は日本国憲法にあらず、国家固有の自然権にあり 302

■安全保障に関しては、現行憲法は無効である 304

■憲法第九条の狙いは「将来にわたり日本の独立を奪うこと」 309

■「民主主義教育」の危険性 313

■「日本国憲法」は、日本の近代史における最大の汚点である 319

■平成十七年六月に提出した憲法前文の岡崎私案 321

■日本の民主主義を完全なものにする正攻法は、教育しかない 323

おわりに 日本人がよって立つべき新しい理論とは——長谷川三千子 330

装幀——川上成夫

写真——鷹野 晃

編集協力——渡邊 茂

『激論』

日本の民主主義に将来はあるか』・目次

## 第一章 民主主義とはどういうものなのか

——その生い立ちにひそむ構造的な問題

- 二〇〇九年鳩山政権発足、日本を覆った「民主主義原理主義」 18
- 民主主義の中心思想にひそむ危険な本性 21
- 民主主義を採用する大多数の国が減びないのはなぜか？ 23
- 民主主義の「遠心力」が国家・社会をバラバラにする 25
- 民主主義で国を守るのか？ 27
- 民主政の揺籃は戦争、軍事であった デーモクラティア 30
- 日本で民主主義が発達しなかったのはなぜか？ 33
- 理論よりも歴史から生まれた、アテナイの民主政 36
- 権力に対する不信任に貫かれた古代ギリシャの制度 38
- 「サラミスの海戦」の勝利がペリクレスを生んだ 42

## 第二章

### 近代デモクラシーの誕生

——英国は成功したが、フランス革命は民主主義の失敗例ではないか？

- 戦争による高揚感が、若者を奮起させる 45
- ギリシャ民主政は愛国主義と結合することで栄えた 48
- 民主主義と衆愚政治は紙一重の差しかない 51
- 民主主義には独裁者を生み出し得る危うい側面がある 55
- 民主主義のもう一つの源泉、マグナ・カルタ 60
- なぜマグナ・カルタは、欧州大陸や日本では生まれなかったのか？ 65
- 衆愚政治とは正反対の北条泰時の合議制 68
- 愛国主義が先にあれば、いかなる政体でも安定する 73
- 語源から迫る「自由」の意味 76
- イギリス型民主主義の基盤はコモン・ローにある 81
- ホッブズの洞察——「自然権」の行使は戦争状態を招く 83

■ ロックの支離滅裂——こっそり神をもち込んだ 87

■ 名誉革命の思想的背景はエドワード・コーク 92

■ 英国型とは全く異質の民主主義の登場 96

■ なぜフランス革命は失敗し、アメリカ革命は成功したのか？ 98

■ 二十一世紀、アメリカン・デモクラシーの危機 104

■ タイ人の知恵が生んだ「二大政党制」の健康なバランス 109

■ タイの軍事クーデターは、単なる政権交代である 112

■ 政治のイデオロギーも必要としない、タイ人の天性の民族性 116

■ 民主主義イデオロギーは喜怒哀楽の「怒」である 119

■ 日本の政治は古来の伝統に即し、戻るべきである 122

## 第三章 日本の伝統政治と近代デモクラシー

——自由民権・議会政治・大正デモクラシーをめぐる

■ 民主政に共通する「人民のための政治」と「権力者への反抗」 126

■憲法起草の際、問題になった「上下、君民の対立」というイデオロギー

129

■不平等条約に表れた、「列国より、己を責める日本人の美質」

133

■日本の伝統、「独断すべからず」は聖徳太子のオリジナル

135

■本当の衆議、衆論の可能性について鋭く見据えた東湖と聖徳太子

139

■諸葛孔明「出師の表」に見る政治の要諦

141

■「衆議」の本質は多数決ではなく、最良の政策を見いだすこと

145

■自由民権運動の旗手、板垣退助の原点にあった会津攻め

151

■民主主義においては、被害者であると訴えることが強みになる

154

■「上下一和」君民苦楽を共にす」という日本人の理想

161

■競争型の民主主義は、日本の国柄に合っていないのではないか

165

■愛国的な「サムライ・デモクラシー」の変質と崩壊

170

■大正デモクラシーの何を評価するのか？

176

■流血なしに政党政治を達成した世界史上に稀有な例

183

■最初の政党内閣、隈板内閣の是非を問う

187